多摩地域の在宅医療・介護・福祉・保健を支える

ふれあい通信

2024 11月号

Index

P2 特集 福祉用具の正しい選び方・使い方
リハビリ専門職の視点

P6 ケアマネ気づきのチカラ 第4回 地域医療連携のご紹介／新百合ヶ丘総合病院

P7 たまふれNEWS

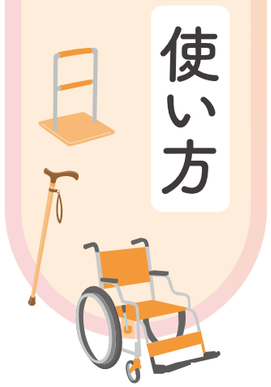
P8 スタッフ紹介 たまレポ！ 「たまフレ！」計画相談支援専門員 羽藤 美香さん

たまふれあいグループ
Tama Fureai Group

特集

福祉用具の正しい選び方・使い方

リハビリ専門職の視点



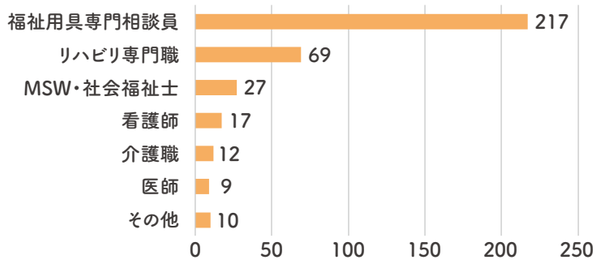
福祉用具の利用が広がる一方で、ご利用者やご家族の生活に合わない福祉用具の選定や誤った使い方により、かえって負担となってしまうケースも見られます。適切な福祉用具を提案するためには、専門職との連携が非常に重要です。福祉用具の選定における、リハビリ専門職の役割について考察します。

福祉用具の種目と選定における多職種連携の実態

厚生労働省の調査「令和3年介護サービス施設・事業所調査の概況」によると、2021年の福祉用具貸与事業所数は約8000事業所です。1事業所あたりの福祉用具専門相談員の配置基準からすると、全国の福祉用具専門相談員の人数は決して多くはありません。一方、リハビリ専門職で最も多い理学療法士は全国で約20万人です。

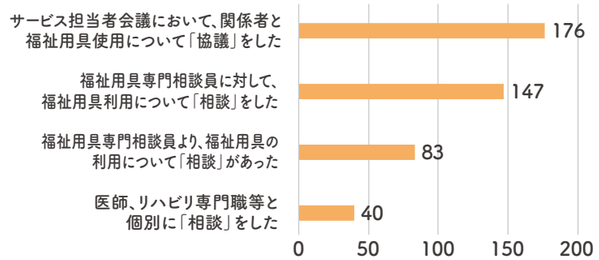
「福祉用具の種目・商品選定にあたって連携した職種」を見てみましょう。ケアマネジャーが福祉用具の種目・商品選定にあたって連携した職種で最も多かったのが「福祉用具専門相談員」に続いて「リハビリ専門職」でした。リハビリ専門職の人数が多いにもかかわらず、ケアマネジャーとの連携が弱いことがこのデータから読み取れます。

福祉用具の種目・商品選定にあたって連携した職種



福祉用具貸与における利用実態と利用者の状態等の要因に関する調査研究事業報告書 2023年3月MRI調査より独自に作成

利用開始から現在までの多職種との連携状況



福祉用具貸与における利用実態と利用者の状態等の要因に関する調査研究事業報告書 2023年3月MRI調査より独自に作成

「利用開始から現在までの多職種との連携状況」によると、連携で最も多かったのは、サービス担当者会議の実施です。主な協議内容は「現在の利用状況」「購入の検討」「継続利用の必要性」でした。

次に多かったのは、福祉用具専門相談員との相談で「現在の利用状況」や「住宅改修」について話し合われています。

また、医師やリハビリ専門職との個別相談では、「使い勝手の確認」や「身体状況に合っているか」「継続利用の可否」についてでした。

体の機能低下で継続して使用できないことも…導入後の評価が重要

福祉用具の利用開始からしばらくの間は問題なく使えていても、時間の経過と共に生活環境の変化や身体機能の低下によって合わなくなることも少なくありません。

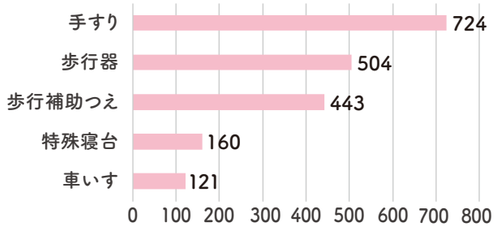
福祉用具の継続利用のためには、定期的に使い勝手を確認し、用具の調整や変更を行うことが必要です。そのためには福祉用具専門相談員、リハビリ専門職双方が継続的に関わることが最善でしょう。

手すり、車いす、歩行補助具（歩行器、歩行補助つえ）

リハビリ専門職の視点

「ADLの維持・向上のため」に貸与が継続されている福祉用具から「手すり」「車いす」「歩行補助具（歩行器、歩行補助つえ）」について、リハビリ専門職が重視している点をまとめました。

ADLの維持・向上のために貸与を継続している主な種目



介護保険制度における福祉用具貸与・販売種目のあり方検討会資料より

手すり

寝室周りは転倒リスクを防止する観点から設置する

住宅に手すりを取り付ける際、寝室周りは特に注意が必要です。

寝起きは脳が覚醒していないため、健常者でもベッドから立ち上がり移動するときはふらつきがあります。高齢者、障害者であればなおさら、動き出しの体勢の維持は難しくなります。寝具から立ち上がり、一歩踏み出した後に転倒・骨折が起きやすいのはそのためです。

転倒を防止するために、リハビリ専門職は寝具からの立ち上がりと、その後の移動の動線、例えばトイレまでにどの種類の手すりをどう配置するかを詳細に決めて提案をします。

寝具から立ち上がる際の補助手すりの選定

設置する手すりの種類は、ベッドに設置できる「L字柵」天井と床でつっぱるタイプの「縦型手すり」置き型の「補助手すり」などがあります。寝具周りとご利用者の立ち上がり方を見て選定します。

置き型の補助手すり

つっぱりタイプ縦型手すり

L字柵

移動の動線に合わせた選定と配置

移動の補助として設置する手すりは、部屋の構造やご家族の動線も加味して設置位置を考えます。

安全面だけを考慮すれば、平行棒は左右につかまるところがあるため最適ですが、スペースやご家族のことを考慮すると設置できないケースが多いです。

現実的にはベッドのL字柵から手が届く範囲の支持物（できれば手すり、無理な場合は棚など安定したもの）を設置し、移動は横手すりが理想です。環境やご家族の都合などを考えて、間隔を取って縦型手すりを設置するなどの工夫をする場合もあります。

手すりについて迷うときはリハビリ専門職の出番！

リハビリ専門職はご利用者の筋力、疾患、障害といった身体機能や、ご利用者の立ち上がり方、歩き方、方向転換の仕方、ご家族を含めた生活動線を正確に評価して、どこにどういったタイプの手すりがあれば、安全に楽に移動ができるかを考えます。

ご利用者、ご家族の生活に合った手すりの選定や設置が難しい場合、リハビリ職は専門性を活かして、可能な方法を提案します。

車いす

ご利用者に寄り添った「シーティング」が大切

シーティングとは、いすや車いすを利用して生活する人を対象に、座位に関する評価や対応（機器の選定や調整を含む）を行うことです。シーティングの目的は、対象者と共有した目標を達成できる適切な座位姿勢を実現することで、二次的障害の予防、活動や参加の促進、心身機能・構造の改善を促すことです。（特定非営利活動法人日本シーティング・コンサルタント協会 HPより）

ご利用者に合った車いす選定のためにリハビリ専門職がまず行うことは、身体寸法の計測です。計測結果をもとに座面幅や高さなど、ご利用者に適合する車いす寸法を決定します。

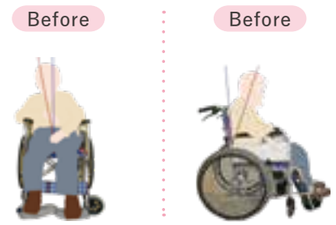
加えて、ご利用者の身体機能を評価し、どのような機能が必要か（背張りの高さ、背張り調整機能の有無、フットサポートの位置、フットサポートスイングアウトなど）を考えた上で選定します。

車いすは一度調整したら終わりではなく、加齢などにより身体状況が変わると調整または交換が必要です。定期的な評価を行っていない場合、ご利用者がつらい姿勢で長時間座っていたり、身体を動かしづらい状況で頑張っているかもしれません。

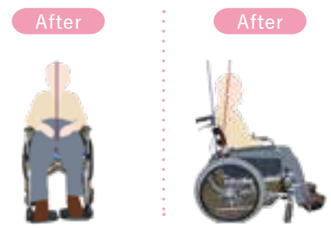
頭の位置と手の動きをチェック

車いすの調整に当たり、重視しているのは頭の位置と手の動きです。頭の位置や角度にゆがみがあると姿勢や空間の認識が悪くなりやすいので、多少姿勢が崩れていても頭や首の位置、向きを優先します。また、手に関しては左の事例のように姿勢を保つために、なるべく上肢を使わなくても良いように車いすを調整します。また、筋肉の緊張がゆるみ、楽な状態で座れていることを指標とします。

リハビリ専門職のシーティング事例



クッションの前後左右の高さを股関節の可動域に合わせて調整。また、体幹側方を含め、支持する面を増やすように背張りのベルトを調整し、アームサポート、フットサポートの高さを調整。



体の崩れがシーティングにより解消され、まっすぐな座位が保持されている

まっすぐ前を見ることができるようになった

加齢と脳梗塞の後遺症から、屈曲した姿勢が強まり左右にも姿勢が崩れていました。そのため、アームレストに利き腕をもたれかけて姿勢を支えている状態でした。食事は少量であれば自力摂取できますが、スプーンをうまく使えず食べこぼしも目立つ状態です。また、身体が曲がっていることで前を見るには頑張って顔を上げなければならず、ご利用者としては、姿勢を保つこと、動くことに努力が必要な状況でした。

シーティングの結果、ある程度身体を起こして姿勢を保つことが可能となり、前方の視界が開けました。また、姿勢を保つのに腕を使用する必要がなくなったことで、食事動作が改善しました。

進化する福祉用具と多職種連携

【事例】

ご家族情報

脊髄損傷がある要介護4の70代夫を70代の妻が支える老老介護のご夫婦。夫婦共に認知症が進んでいます。現在たまふれあいクリニックの訪問診療（リハビリテーション）が入っています。

経緯

夫がベッドから車いすへの移乗が困難で、妻が介助をしていますが、身長差もあり大変ご苦労されていました。そこで、移乗用介護リフトの導入を検討するため試用しました。しかし、妻がベルト装着や手順の習得が難しいため、担当者会議を実施。会議にて「同じような老老介護のご家族で導入していた移乗サポートロボットが合うのでは」と看護師から提案がありました。試したところ移乗を楽に行うことができ、導入が決定。現在は問題なく使用できています。

移乗サポートロボット　Hug

操作が簡単で安全性が高く、介助者にとっては介護負担軽減に、ご利用者にとっては立位訓練にもなります。そのため画期的な福祉用具として注目されています。

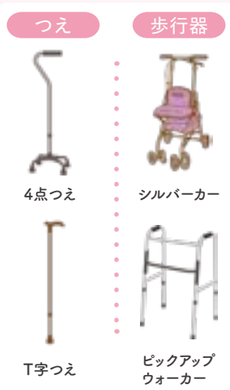
出典：株式会社FUJI
https://hug.fuji.co.jp/products/

歩行補助具

利便性と安全性のバランスが重要

歩行補助具は、大きく分けて歩行器とつえがあります。それぞれに多彩な種類があり、使用する場所や安全性を考慮して、適切な用具を選ぶことが重要です。間違った選び方や使い方をすると転倒のリスクが高まるため、リハビリ専門職の評価のもとでの導入をおすすめします。例えば、つえで十分だと思っていただご利用者が、実際は歩行に不安があり、歩行器に変更したことで安心して歩行ができるようになったケースも多くあります。

歩行補助具の役割は行きたい場所に安全に歩いてたどり着くことですが、無理をして合わない歩行補助具を使用し、転倒から骨折をしてしまっては本末転倒です。ご利用者が必要としている歩行補助具を見極めて選びましょう。



T字つえは全体をしっかり握る

T字グリップの前方や後方のみを握るのではなく、図のようにT字グリップ全体を握ります。そうすることで、つえ先にしっかりと力が伝わり安定します。

つえの正しい長さを知ろう

正しい長さは、足の小指の外側15cmのところにつえを突いたとき、ひじ関節が約30度の角度になる長さ、もしくは、つえが床面から足のつけ根（大転子）までの長さです。

つえ先のゴムもしっかり確認！

ゴムがすり減って劣化した状態だと、滑りやすくなり、転倒のリスクがあります。定期的に確認し、劣化していれば交換が必要です。

リハビリ専門職ができること

たまふれあい
訪問リハビリテーション
看護・リハ部　副部長
榛葉（しんば） 寛（ひろし）さん

変化していく身体機能に合わせて福祉用具の調整を行いましょう

福祉用具は特集冒頭でお伝えしたように、福祉用具専門相談員と共に、リハビリ専門職が継続的に関わり、身体機能の変化に応じた福祉用具の調整が大切です。たまふれあいグループの訪問リハビリを利用されている方はもとより、利用されていない方でも、グループ内連携でリハビリ専門職がご相談に乗ります。福祉用具の使い勝手に何となく違和感があるなど、ささいなことでもたまふれあいグループの看護師、ケアマネジャーにお気軽にお声がけください。

Kさん
より快適に暮らせるよう
ベストな選択を提案

リハビリ専門職は、まずご利用者の身体機能を正確に評価し、その方が望む生活やご家族の負担軽減を目標に訓練を行います。その上で必要となる福祉用具をご利用者、ご家庭のご希望に合わせて選定します。

ご利用者ごとに生活状況、身体機能も異なります。専門性を活かして個々に最適な福祉用具をベターではなく、ベストな状態で使えるように細部にわたり評価し提案します。

Hさん
どんな用具を選べばいいか
困ったときの頼れる存在

福祉用具導入にあたり、住宅事情やご利用者やご家族の受け入れ状況によって導入が思うように進まないケースもあるでしょう。そういった場合も、あらゆる角度から生活が良くなる提案をします。

リハビリ専門職が福祉用具で連携できる部分は多いのでぜひ頼っていただければと思います。

ケアマネ 気づきのチカラ ～明日へのヒント～

テーマ

福祉用具と多職種連携

答えた人

ベテランケアマネ Tさん

事例を通して、業務に役立つ知識や気づきをお伝えします。

※プライバシー保護のため、事例は個人が特定されないよう一部修正・変更を加えています。

利用者情報

独居の90代女性。要介護5で寝たきり状態です。娘さんご家族が近隣に住んでおり、訪問看護と訪問リハビリサービスが入っています。ヘルパーは定期巡回ではないので、日中はヘルパーが介助、夕方から就寝前までは娘さんが介護を行い、夜間は1人で過ごされています。

状況

介入当初、ご本人はベッド上である程度動けたため、体圧分散マットレスを使用していました。しかし、約1カ月前、リハビリ職から「寝たきりの状態が進行し、ほとんど動けない」と報告がありました。これを受け、ご家族にもご本人のベッド上での様子を確認していただきました。

ご家族とヘルパーの了承を得て、ヘルパー訪問時に同行させてもらい、おむつ交換時に皮膚の状態を確認したところ、荷重がかかりやすい箇所に赤みが見られました。

褥瘡のリスクが高まっていることを受けて担当者会議を開き、エアマットの導入を検討しました。その後、福祉用具業者にご本人の状態や生活状況を詳しく伝え、複数のエアマットを提案してもらい試用。体の動きとマットレスの機能が合っているかをPT・OTに、看護師やヘルパーに皮膚の状況を確認してもらい、選定の助言をもらいました。その結果、ご本人に合ったマットを導入し、現在は床ずれの発生はありません。

日常業務が多職種連携！

ケアマネジャーは、ご利用者の生活を支えるため、常にさまざまな職種と連携を取っています。「多職種連携」と聞くと、特別な取り組みや、明確に業務を定める必要があると思うかもしれません。

ケアマネジャーは日常的に看護師やヘルパーに「何か変わったことがあれば教えてください」と声をかけたり、訪問診療や看護、介護サービスが入る際に「〇〇の課題があるので確認したい」と伝えて同行するなど、日々のコミュニケーションを大切にしています。こうした信頼関係の積み重ねこそが多職種連携であり、難しく考える必要はないはずです。

第4回 地域医療連携のご紹介

いつもありがとうございます！

南東北グループ 医療法人社団 三成会 新百合ケ丘総合病院

神奈川県川崎市麻生区古沢都古255
TEL：044-322-0185

貴院の紹介をお願いします

南東北グループは福島県郡山市に本拠を置き、1都1府4県にわたり100施設以上の医療、介護、福祉施設を展開する医療グループです。当院もその一員として、グループの理念を引き継ぎながら、地域医療と高度先端医療を通じて社会的使命を果たしています。私たちは、職員が誇りを持ち患者さんが安心して利用できる「最良の安心」を提供することを目指し「すべては患者さんのために」を基本方針として地域社会への貢献に取り組んでいます。

サポートセンターについて教えてください

サポートセンターは2023年10月に拡張され、看護師、医療ソーシャルワーカーなど約30名で構成されています。今後、薬剤師も加わる予定です。サポートセンターはこうしたスタッフの集合体として機能しています。部の所属に関係なく、各部署のスタッフが連携し、患者さんの支援に努めています。

地域医療連携において大切にしていることは何でしょうか

特に救急医療において、地域からの患者さんを断らず、来ていただくことを第一の柱としています。そして、患者さんが地域での暮らしに戻り「最良の安心」を感じられるよう、地域の医療、介護事業所とのつながりを大切にしております。そのつながりにおいてサポートセンターが重要な役割を果たしています。

読者の皆様にメッセージをお願いします

当院は大学病院レベルの先進医療と知識と技術を提供しつつ、地域医療の現場では安心と安全を重視しています。患者さんが心穏やかに過ごせる環境づくりを目指し、地域のクリニックや介護事業所、居宅のケアマネさんと、シームレスな関係を築いていきたいと考えております。

「すべては患者さんのために」を基本方針に日々奮闘しています

たまふれNEWS

地域の皆様とともに歩むたまふれあいグループの“今”をご紹介します！

「たまふれあいの家　登戸新町」
地域交流室でつながる地域の輪

「たまふれあいの家　登戸新町」では、1階の地域交流室にて定期的にイベントを開催。ご近所の保育園児たちと交流する機会を多く設けています。

3月21日「感謝の交流会」

園児さんとご利用者でお礼のお手紙を交換しました。園児さんからは肩たたきのプレゼントが。

6月5日「野菜の苗を植え付け」

「どんな野菜かわかるかな？」 園児さんとのお喋りに、笑顔があふれます。

7月9日「七夕祭り」

園児さんの歌とダンスの発表に、ご利用者もスタッフも癒やされました。

8月27日「すいか割り大会」

園児さんとご利用者で、どちらが早くすいかを割れるか競い合いました。

9月20日「敬老会」

最高齢の百一賀（101歳）のお2人をはじめ、傘寿、米寿、卒寿の方など合計9名を表彰。皆さんお元気です。

日本芸能協会のボランティア方にお越しいただき、歌と踊りを鑑賞しました。

ふれあい通信＆たまふれあいグループへのご意見・ご感想をぜひお寄せください！

アンケートご回答で

コンビニ等で使える♪

抽選で5名様

QUOカード500円分プレゼント！

ご回答いただいた内容は『ふれあい通信』の記事制作およびたまふれあいグループのサービス向上のために活用させていただきます。

回答方法

①ご郵送にて

本号に同封のアンケート用紙に必要事項を記入の上、切手付きの返信用封筒にてご郵送ください

②二次元コードから

携帯のカメラで下図を読み取り、アンケートページにアクセスしてください

インタビュイー

「たまフレ！」
計画相談支援専門員
羽藤（はとう） 美香（みか）さん

“その人らしい生き方”を
支援したい

地域相談室によるスタッフ紹介

たまレポ！

今月のインタビュアー　地域相談室 相談員　堀澤（ほりさわ） 優子（ゆうこ）

こんにちは！ たまふれあい地域相談室です。

子育てが一段落した頃に始めた仕事が介護職でした。小規模多機能型居宅介護事業所やデイサービスなど、さまざまな施設で約6年間勤務し、その間に介護福祉士の資格も取得。次のステップとして、サービス提供責任者（サ責）に挑戦したいと考え、転職を決意しました。ところが、サ責とサービス管理責任者（サビ管）の違いが分からず、サビ管を募集していた就労移行支援事業所に誤って履歴書を送付。しかし、面接を受けた際に「やってみたい」と感じて入職し、障害者支援の仕事を一から学びました。業務に当たるうちに、ご利用者は就職ができれば幸せなのか、と疑問を感じ始めます。そこで、再度転職活動を開始。たまふれあいグループの福祉事業所「たまフレ！」では、施設長との面談にて福祉や仕事に対する考えを深く理解してもらえました。そして見学時に、ご利用者の生活全般を支援する計画相談支援の奥深さに感銘を受け、先輩社員の雰囲気が良かったことからその場で入職を決めました。

「たまフレ！」で働き始めてから1年が経ち、羽藤さんは「怒涛のような毎日。必死に先輩職員についていっている感じです。自分の成長は目に見えないので分からないけれど、ご利用者の成長を見ると一緒に頑張れているのかなと思います」と控えめです。そんな羽藤さんですが、先輩職員からの信頼も厚く、期待されています。

今後の目標は、社会福祉士の資格取得と相談支援従事者研修を修了し、計画相談支援専門員としてステップアップすることです。ご利用者が自分らしく、楽しく、そして「気持ちよく」生活できるよう支援することを仕事のモットーにしている羽藤さんを、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

音楽を聴くのが大好きで、
特に「ヨルシカ」と
「BUMP OF CHICKEN」を
推しています。
魂のデトックスのためにも
ライブは欠かせません！

馬肉専門店での
お食事が最高でした。
馬は見るのも好き、
食べるのも好きです♪

地域相談室 イケダのつぶやき

紅葉シーズンになりましたね！　イチョウやモミジなど、道を歩いているときれいに色づいた木々たちを見て癒やされております♪　もう少し寒くなるとあっという間に散ってしまって寂しいですが…　今のうちに紅葉ドライブにでも出かけようと思います🍁

（地域相談室 相談員　池田（いけだ）あゆ）

たまふれあいグループ
Tama Fureai Group

たまふれあいクリニック
たまふれあい 居宅介護支援事業所
たまふれあい 訪問看護ステーション
たまフレ！
たまふれあいの家
たまふれあいの森

ご相談は下記の地域相談室までお電話ください

044-931-0220

〒214-0014　神奈川県川崎市多摩区登戸1763
ライフガーデン向ヶ丘2F